

ポスター | 1-14 成人先天性心疾患

ポスター

成人先天性心疾患：体心室機能不全

座長:片岡 功一(自治医科大学とちぎ子ども医療センター)

Thu. Jul 16, 2015 4:50 PM - 5:14 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

I-P-065~I-P-068

所属正式名称: 片岡功一(自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児手術・集中治療部)

[I-P-066]成人期の修正大血管転位における急性心不全の病像 - 当院で経験した6症例の検討 -

○兒玉 祥彦^{1,2}, 坂本 一郎¹, 山村 健一郎³, 石川 司朗², 原 寿郎³, 砂川 賢二¹ (1.九州大学病院 循環器内科, 2.福岡市立こども病院 循環器科, 3.九州大学病院 小児科)

Keywords: 修正大血管転位, 急性心不全, 成人先天性心疾患

九州大学病院では成人先天性心疾患外来を開設し、福岡市立こども病院と連携し専門的診療を行っている。今回当院で管理中の成人期修正大血管転位 (ccTGA) 34例 (16-74歳: 中央値29歳、ダブルスイッチ6例、conventional repair (CR) 17例、TCPC 3例、無手術 (UR) 8例) のうち、急性心不全を発症した6例 (初回心不全時21-52歳: 中央値30歳、CR 4例、UR 2例) について報告する。【症例1】29歳男性。5歳時にRastelli術、13歳時に導管置換を施行。29歳時に肺うっ血で入院。中等度大動脈弁閉鎖不全 (AR)、重症肺動脈弁閉鎖不全 (PR) があり、両弁置換の方針。【症例2】24歳女性。2歳時にRastelli術、20歳時に導管置換を施行。21歳時に肺うっ血のため入院し、以後2回の入院歴あり。中等度ARを認め今後当院にて精査予定。【症例3】28歳男性。5歳時にRastelli術。26歳時に中等度AR、中等度三尖弁閉鎖不全 (TR) を指摘されたが経過観察していた。27歳時に肺うっ血で入院。その後、両弁置換および導管置換を施行。【症例4】61歳男性。11歳時に肺動脈弁拡大術を施行 (心室中隔欠損 (VSD) は自然閉鎖)。48歳から心不全入院を反復。重症TRを認めたが長期予後の観点から弁置換術を行わず、心移植登録後、60歳で補助人工心臓を装着し移植待機中。【症例5】31歳女性。小児期は未診断。30歳時、妊娠35週に肺うっ血となり、挿管、大動脈内バルーンパンピングにて管理。この時ccTGA (心内奇形なし) と診断。中等度TRを認めたが挙児希望のため弁置換術に同意されず経過観察中。【症例6】74歳男性。52歳時、心房粗動に伴い浮腫を認め入院。この時ccTGA、VSD、心房中隔欠損、肺動脈弁狭窄と診断。薬物療法でコントロール困難となり、73歳時にカテーテルアブレーション (僧帽弁下大静脈峡部焼灼)。【結語】急性心不全発症症例は6例中4例がCR群、2例がUR群であった。多くの症例でTRおよびARを認め、これらが急性心不全リスクの可能性がある。